新年を迎えて――自信をもって実績作りを

内山　充

皆様、希望と期待をもって、新しい 2009 年を迎えられたことと存じます。昨年は変化と激動の年でした。その状況は今年も続くと考えられますが、われわれ一人ひとりは、変化を進歩改善の機会と捉え、激動の中で自分のなすべき責務をわきまえ、的確な行動で務めを果たすよう心がけようではありませんか。

当認証機構は、昨年12月の新たな法人法の施行とともに、これまでの中間法人から一般社団法人に移行いたしました。さらに、定款や諸規程、および認証業務の執行体制等を改定整備するなど、近い将来、薬剤師生涯学習の質を保証する第三者評価機関として公益法人認定を申請するための準備を重ね、思いを新たに事業に臨んでおります。これまでにも増してご理解とご支援をお願い申し上げます。

ところで薬剤師は、これまで長い間、まじめに必要な業務を果たしているにもかかわらず、「顔が見えない」と言われてきました。今年は目に見えるような実績作りによって、「薬剤師がいてよかった」あるいは「やはり薬剤師がいなければならない・・」と広くいわれるような、世の中からの認識の変化を獲得したいものです。

厚生労働省から昨年出された「安心と希望の医療確保ビジョン」には、職種間での協働に貢献し、チーム医療の担い手として活動する病院薬剤師や、地域で支える医療の推進に積極的な参加が期待される薬局薬剤師の具体的な活動について、大きな期待が述べられています。このような薬剤師の実践活動については、これまで既に薬剤師仲間でも、各方面よりしばしば提唱されているところですが、いまだに実績として十分に認識されてはいなかったようです。

実績が認識されるということは、実際に患者あるいは医療従事者から薬剤師の実務貢献が行動として見えるということです。人前で積極的に行動するために最も必要なものは「自信」です。自信をつけるには生涯学習しかありません。薬剤師の業務に関連する学問や技術は日々進歩しています。医療や病態について学ぶことは当然必要ですが、それにも増して薬学の基礎知識を深めるための生涯研修が、「自信」作りには重要です。大学で学んだ薬学の基礎科目の中で好きだった科目を思い出して、それに関連する新しい知識を深めることは良い方法です。自分の得意な基礎的フィールドを伸ばして下さい。われわれの専門は「薬学」です。医療現場で医師と対等にコミュニケーションを行うには、しっかりとした「自らの専門知識」が必要です。

医療や病態についての知識は、文書や情報あるいは新たな研修に依存できます。しかし、基礎知識は身についていなければなりません。身についた基礎知識があれば、自信につながります。自信は積極的な行動となって表れ、「顔が見える薬剤師」となってきます。今年は、薬剤師のこのような変化が期待されます。そこには、必ずや薬剤師の実績に対する新しい認識が生まれてくることでしょう。

(2009.1.1)